

+ 4 5 【まんどらごら】

あるとき懐爺に質問しました。

「にんげんとどうぶつが、がったいした、おぼけはいるが、にんげんとしょくぶつが、がったいしたおぼけはいるんかのう」

「外国にはけっこういますね。【まかり一ぼん】は美人のおぼけです。【かはく】これは花の魄と書きますが、やはり美人です。それと」

「がいこくは、どうでもええ。びじんじゃろが、かんけいない。もんだいは、にほんじゃ」

ぼくが強くいうと、懐爺は苦笑いして、

「【まんどらごら】ですかね。でもこれは、外国から輸入（ゆにゆう）されたおぼけです」

「どいつが、ゆにゆうなんかしたんか」

また強くいうと、懐爺はまた苦笑いして、

「すいません、言い方が悪い。貿易（ぼうえき）で輸入した物にまぎれこんでやってきたのです」

「どんなおぼけなんじゃ」

「死体の足元にでてくる、細くて小さな雑草で、それを引き抜くと、人間の首が引き抜かれたときと同じ、物凄い叫び声をあげて、死んでしまいます」

「なまえとこえは、おそろしいが、かわいそうなおぼけじゃのう」

「そうですね。【まんどらごら】を見たら、そっとしておいてあげてください」

「おはかの、くさむしりは、むやみにするものではないのう」

ぼくはその後、墓地に行くと、そこに生えている雑草はみんな【まんどらごら】だとおもえたものです。